

# 那覇西ロータリークラブ

国際ローター 2580 地区 創立 1962 年 6 月 4 日

2023年11月15日 週報 第2705号



会長 中村 敦 副会長：慶佐次 操・三浦 勉  
幹事：比嘉芳直  
例会日 毎週水曜日 12時30分  
例会場 沖縄ハーバービューホテル  
事務局 那覇市松山 1-1-14 那覇共同ビル 6階  
TEL：861-7824 FAX：861-7825

## 那覇西ロータリークラブ年間テーマ

「親睦を深め問題意識を共有し、奉仕の心を育む」

四つのテスト

- |                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 真実かどうか           | 本日のプログラム                  |
| 2. みんなに公平か          | 11月15日(水)                 |
| 3. 好意と友情を<br>深めるか   | ・点鐘<br>・ロータリーソング          |
| 4. みんなの為に<br>なるかどうか | ・日も風も星も<br>・会長報告<br>・幹事報告 |



## 会長報告



時間の都合上、1点の報告とさせていただきます。当クラブの安里清栄会員より「マンガで伝える沖縄戦 平和ってなんだろう」という書籍が発行されました。当書籍を2580地区の会長のみな様にお送りしております。素晴らしい活動だと思いますのでみなさまのテーブルに当書籍をお返し致しますので手に取って頂ければと思います。

## 例会報告

第2828回(2023年11月8日)出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回 訂正出席率
53名	34名	18名	65%	62%

### 欠席会員

新里、上原、大城(博)、儀部、宮内、福重、慶佐次  
久保、渡慶次、城間、石垣、照屋(紀)、松野下、  
小豆澤、佐久本、稲嶺、福本、藝亀会員

### ゲスト

川越藤雄(明治安田生命保険)  
古江健太郎(NTT西日本)  
新屋盛久(沖縄総合警備保障)  
新屋宏美(ご家族)  
小畑香代恵(琉球古典音楽野村流保存会)  
森田ユキ子(三史太鼓保存会)  
川辺寿幸(ゲストスピーカー)

ニコニコBOX(2023年11月1日)

合計¥4,000 累計¥122,000

糸洲 昇 さだめの範囲とはいえ、1:00 遅れまして  
すいません。  
大城純市 本日の卓話 沖縄県

## 11月度誕生祝い

照屋圭太(11月6日) 福重 勉(11月18日)



## 幹事報告

11月21日に沖縄分区のIMが開催されます。16名の出席名簿がありますが追加が可能かもしれませんので参加検討宜しくおねがい致します。先日のガバナー公式訪問の際にもご案内しましたが地区大会の参加可否の回覧を再度回します。事務局から当クラブからの参加人数が少ないとのことなので再度、ご検討をお願い致します。

## ゲストによる三線音楽公演



明治安田生命沖縄支社長 川越藤雄様「夜啼き鳥」



ジョンソン美枝会員 「あがろうざ節」



NTT西日本支店長 古江健太郎様 汗水節」



三史太鼓保存会  
森田ユキ子様



球古典音楽野村流保存会  
小畑香代恵様

(奥)  
沖縄総合警備保障  
新屋盛久様ご夫婦



卓話「沖縄県子育て総合支援事業のご紹介」  
学校法人尚学院 理事 川邊寿幸様

当事業の成り立ちの経緯と概要からご紹介いたします。沖縄県では支援の空白に陥りやすい高校生を対象としての沖縄県子育て総合支援事業を10年前より行っており、当事業は経済的に厳しい家庭に対して大学への進学環境を総合的に整備し、教育によって貧困の連鎖を断ち切ろうというのが目的です。次に事業内容の詳細についてお伝えします。夏休みなどの期間につきましては、那覇尚学院とコザ尚学院で夏期講習会を行っておりますが当事業の生徒さんも尚学院に通って学んでもらっております。尚学院までの通学移動はタクシー会社と契約し送迎を行っております。また様々な模擬試験、英語検定などの費用も事業負担とし移動に関しても提携タクシー会社と連携をして支援をしている状況となります。これは沖縄県独自の支援制度で全国的にも珍しいものであり、県と尚学院が一緒になり育ててきた事業と言えます。県外のマスメディア、書籍などにも取り上げられるようになり県外の議員さんなどが視察に訪れるようになりました。私は当初、公教育が担うべきだと考えておりましたがこれまでの多くの学生が塾や予備校へ通っている時代に、経済的理由で学べないのは教育の機会均等に反するのではないかと考えており、事業に意義を深く感じております。最後に今後の課題について述べたいと思います。この10年で支援した高校3年生は1,000名あまり。その1,000名のうち国立大学へ進学した方が239名、競争倍率の高い医療系専門学校へ進学希望する学生の8割が希望を叶えております。しかし、沖縄子供の未来会議などの組織などの連携が取れていないので中学を卒業してからの支援が途切れる可能性があります。各団体や組織と連携して継続的な支援体制の構築が必要です。また当事業は国の一括交付金による事業となり単年度事業の扱いになり、学生にたいして来年度も行う旨の約束ができないことがあります。最後に普通高校から通信学校に転校する学生が増えています。そのような学生は基礎学力がついておらず個別対応が求められております。学生さんたちにきめ細やかな対応と居場所づくりが求められており新たな仕組みづくりが必要です。ご清聴ありがとうございました。